



e-learning教材【支援人材本人向け】

令和3年度 医療専門職支援人材確保・定着支援事業

本教材では、病院勤務の第一歩について、3つのテーマを通してご紹介します

- 以下の3つのテーマを通して病院勤務の第一歩について学び、職場へのスムーズな適応と、チーム医療の一員として安心・安全な医療の提供を目指しましょう！

1. 病院事業の概要

- 病院事業の特徴
- 看護補助者・医師事務作業補助者の役割

2. 病院で働く上で必要な知識

- 医療安全
- 院内感染症対策
- 個人情報保護

3. インタビュー

- 看護補助者・医師事務作業補助者
- 入職後の苦勞とそれをどのように乗り越えたのか
- 仕事のやりがい

1. 病院事業の概要

病院にはどのような機能があるのでしょうか？
また、病院ではどのような職種の人働いているのでしょうか？



病院には入院や外来をはじめとした様々な機能があります

病院の主な4つの機能



①入院

- 外来からの入院
- かかりつけ医からの紹介の入院
- 救急入院

など



②外来

- 通常の診療（受付・診察・検査・処置・会計）
- 夜間や休日の診療
- 救急外来

など



③在宅

- 医療関係者が患者さんの自宅を訪問

など



④予防

- 人間ドック
- 検診

など

病院では様々な職種が連携し、医療サービスを提供しています

病院事業の特徴

チーム医療

● 診療部（医局）

治療方針の決定と実際の治療などを行う



各職種間との連携や、指示命令システムの指揮官を担っています

● 看護部

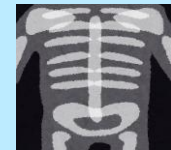
診療の補助、患者さんの療養生活の支援や観察などを行う



病院の中で人数は最大！看護の資格を持つ看護職と資格を持たない看護補助者がいます

● 医療技術部

薬剤科、検査科、放射線科、リハビリテーション科、栄養科など



● 事務部

人事課、経理課などと担当が分かれ、病院の運営をサポートし、職員が働きやすい環境を整える

● その他

医事課、情報管理部門、地域連携室、医療相談室、経営企画室、委員会 など

看護補助者は看護職と共に患者さんのサポートなどを行います

看護補助者の役割と主な業務

役割*

看護師長や看護職員の指導のもとに、
看護の専門的判断を必要としない看護補助業務を行う

主な業務*

患者さんと接しない業務（周辺業務）

病室の整理・整頓、シーツ交換、物品や消耗品の整理、
医療器具の準備や片付け、看護職員が行う書類整理の代行

患者さんと接する業務（直接ケア）

食事・お風呂・排せつの介助、車いすの移動の補助

検査やリハビリの搬送 ※状態が安定していると看護師が判断した人に限る
など

看護補助者が 行わない業務

注射や薬の投与・処置 など

【出所】：*「2021年度改訂版 看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイド」

5 （日本看護協会）（https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/guideline/way_of_nursing_service.pdf）をもとに作成

医師事務作業補助者は医師の事務作業をサポートします

医師事務作業補助者の役割と主な業務

役割

医師の事務作業をサポートすることで、医療の質向上および業務の効率化に貢献する

主な業務

文書作成補助

医師の指示のもとでの診断書の作成や入退院時の文章作成

代行入力業務

医師の指示のもとでのカルテの作成・入力

医療の質向上のための事務作業

治療や診察に関するデータの管理、研修・会議の準備

行政上の業務

国や自治体に報告するデータの整理

など

【出所】：「医師事務作業補助者業務指針試案 ～医療の質向上と病院運営の全体最適に向けて～」

6 (特定非営利活動法人 日本医師事務作業補助研究会) (http://ishijimu.umin.jp/pdf/sisinsian_20130416_fix.pdf) をもとに作成

2. 病院で働く上で必要な知識

病院で働く上で、
どのようなことに気を付ける必要があるのでしょうか？



病院で働く上で必要な知識について3つの観点からご紹介します

- 以下の3つのテーマを通して、病院で働く上で必要な知識について学んでいきます。

医療安全

院内感染症対策

個人情報保護

病院で働く上で必要な知識について3つの観点からご紹介します

- 以下の3つのテーマを通して、病院で働く上で必要な知識について学んでいきます。

医療安全

院内感染症対策

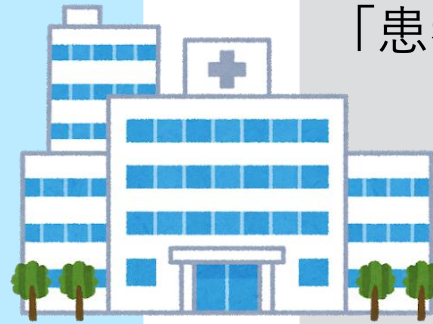
個人情報保護

安全な医療サービスを提供するための取組が必要です

なぜ医療安全が必要か

国民・患者の医療への期待

「安全・安心な
医療を受けたい」



医療の現場

「患者の安全は何よりもまず優先」

しかし

医療の提供は
一定のリスクを伴う

医療事故の防止と発生時の対応に取り組むこと
= 医療安全

が必要！

重大な医療事故がきっかけとなり医療安全の取組みが始まりました

医療事故の事例

重大な医療事故

年月	内容
平成11年1月	■ 肺手術と心臓手術の患者を取り違えて手術 (医師4名と看護師2名が業務上過失傷害容疑で起訴された)
平成11年2月	■ 看護師が消毒液と生理食塩水を取り間違えて静脈内に投与し、 患者が死亡した

身近なミス（看護補助者・医師事務作業補助者などによる）

配膳中に患者誤認

病室の誘導間違い

他の患者の歯ブラシで口腔ケアを実施

小さなミスが大きな事故へ通じる可能性があります。
医療事故を防ぐため、日頃から対策をすることが重要です。

医療安全のために取組の理解と実践が重要です

医療安全への取組の一例

事故防止への取組

■ 患者誤認防止の例

フルネームによる患者確認

まず患者さんにフルネームを名乗ってもらい、医療スタッフが手元の情報と一致するか確認しましょう。



リストバンドの活用

自分の名前を名乗ることのできない患者さんもいるため、リストバンド（ネームバンド）も活用しましょう。

■ 転倒・転落の防止の例

リスクの理解

濡れている床は転倒のリスクがあります。すれ違ったり追い越す際に触れただけでも、バランスを崩して転倒するおそれがあることを確認しましょう。

誘導の際などに急かさない

声掛けなどを行う際は、患者さん一人ひとりに合わせた対応を心掛けましょう。

環境の整備

事故を事前に防ぐよう、ベッドの周りなどは物の配置を工夫しましょう。必要なものやナースコールは手が届きやすいところに置きましょう。

問題発生時の対応

■ 緊急時の対応の例

その場を離れず、大きな声やナースコールで人を呼ぶ

（患者の急変を発見したときなど）

病院で働く上で必要な知識について3つの観点からご紹介します

- 以下の3つのテーマを通して、病院で働く上で必要な知識について学んでいきます。

医療安全

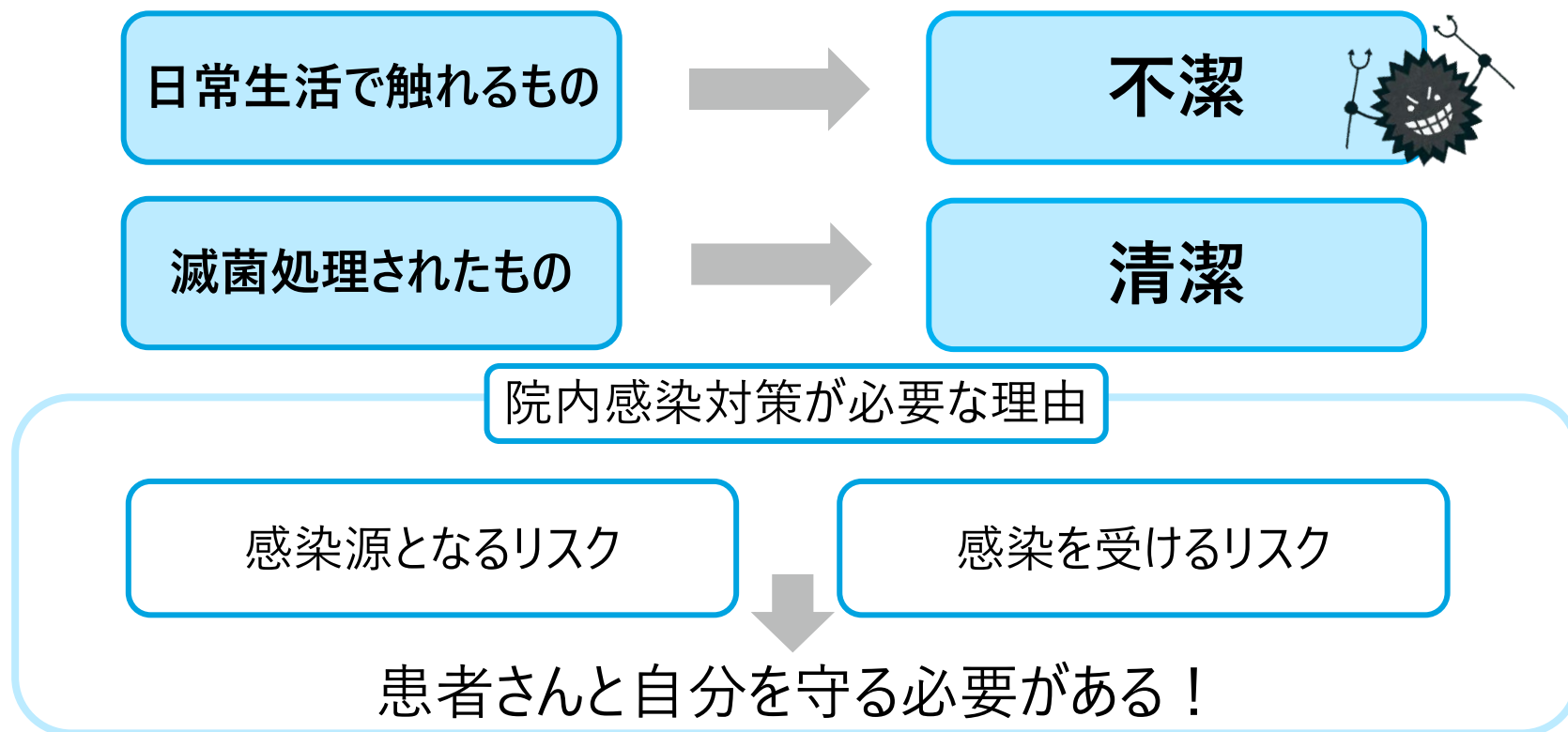
院内感染症対策

個人情報保護

患者さんと自分を守るために院内感染対策が必要です

なぜ院内感染対策が必要か

- 私たちの周りはたくさんの菌やウイルスであふれており、特に病院の中には、ちょっとした菌やウイルスでも感染しやすい患者さんがいらっしゃいます。また、職員の感染対策は患者さんのみならず、職員自身やその家族の命を守るためにとても重要となります。



正しい方法で手指消毒を行うことが大切です

手指衛生

- 私たちの手は生活の中で様々なものに触れるため、目に見えない菌やウイルスがたくさんついています。そのため、菌やウイルスがたくさん付いた手で自分の体や患者さんの体を触ることで感染が広まる危険性が高まります。正しい手指消毒を身につけ、手についた菌やウイルスの量を減らす必要があります。

手指消毒の注意*

①手洗い

正しい手の洗い方

手洗いの前に

・爪は短く切っておきましょう

・時計や指輪は外しておきましょう

1



流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。

2



手の甲をのぼすようにこすります。

3



指先・爪の間を念入りにこすります。

4



指の間を洗います。

5



親指と手のひらをねじり洗いします。

6



手首も忘れずに洗います。

□ 手指消毒の方法

- ✓ 通常は、「エタノール含有消毒液による手指消毒」を行います。
- ✓ 目に見える汚れがついている場合は、「液体せっけんと流水による手洗い」を行います。

□ 手指消毒のタイミング

- ✓ 患者に触れる前後、ケアの前後、周囲の環境や物品に触れた後などに手洗いを行います。

【出所】：*「新型コロナウイルス感染症の予防（啓発資料）」（厚生労働省）（<https://www.mhlw.go.jp/content/000603845.pdf>）をもとに作成

*「正しい手指消毒」（厚生労働省）（<https://www.mhlw.go.jp/content/000501122.pdf>）をもとに作成

正しい方法でマスクを使用することが大切です

衛生管理

- マスクの着用をすることで、飛沫が飛ぶこと・飛沫を吸い込むことを軽減できます。また、無意識に鼻や口を手で触り、ウイルスが体内に入ること防ぐことができます。しかし、マスクを正しく使用しなければ、十分にその効果は発揮されません。正しいマスクの使用法を確認し、感染対策をしっかりと行いましょう。

マスク使用時の注意*

正しいマスクの着用



1 鼻と口の両方を
確実に覆う



2 ゴムひもを
耳にかける



3 隙間がないよう
鼻まで覆う

- 品質が確かなマスクを使用しましょう
- 自分の顔に合ったサイズを使用しましょう
 - ✓ 鼻の位置はずれていませんか？
 - ✓ ほほやあごに隙間はありませんか？
- マスク着用後も管理に気を付けましょう
 - ✓ マスクの表面を触っていませんか？
 - ✓ 取り外し時はひも部分を持っていますか？
 - ✓ 昼食時など、マスクをそのまま机に置いていませんか？

【出所】：*「新型コロナウイルス感染症の予防」（厚生労働省）

院内でのごみの捨て方には注意が必要です

衛生管理

- 医療の現場で出るゴミの中には、重大な感染が広がる可能性のあるものが含まれます。針などの取り扱いに注意が必要なものも多くあり、正しいルールでゴミを捨てることが非常に重要です。

ごみの分別上の注意*

医療廃棄物

感染性廃棄物

- 血液や体液等が付着しているもの
- 感染の危険が考えられるもの

非感染性廃棄物

- 血液などの体液が付着しておらず、感染の危険性がないと判断されるもの



バイオハザードマーク

赤色



液状または泥状のもの
(血液等)

橙色



固形状のもの（血液等が
付着したガーゼ等）

黄色



鋭利なもの（注射針等）
分別排出が困難なもの

注意！

- (1) ごみに直接触れない
- (2) ごみ袋はしっかりしばって封をする
- (3) ごみを捨てた後は手を洗う

【出所】：*「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル（平成30年3月）」（環境省）

病院で働く上で必要な知識について3つの観点からご紹介します

- 以下の3つのテーマを通して、病院で働く上で必要な知識について学んでいきます。

医療安全

院内感染症対策

個人情報保護

病院では個人情報の扱いに特に注意する必要があります

なぜ個人情報保護が必要か

- 病院という環境には、たくさんの方の極めて重大な個人情報があふれています。そして医療従事者は、業務上、それらの情報を知りえる機会が多くあります。そのため、医療の現場では個人情報への意識を高め、患者さんの生活を守る必要があります。

個人情報とは？

氏名、性別、生年月日、年齢、本籍、住所、マイナンバー、電話番号、勤務情報、家族などの、特定の個人を識別することができる情報



病院には数多くの個人情報が存在！！
(健康情報も重大な個人情報)

個人情報が漏洩すると・・・

- プライバシーが侵害される可能性
- 詐欺や事件に巻き込まれる可能性
- 個人・会社の経済的な損失につながる可能性 など

【出所】：「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス（平成29年4月14日）」（厚生労働省）

個人情報保護の取組について理解し、実践することが必要です

個人情報を守るための取り組み例

- 個人情報の漏洩は身近な場所で発生する可能性があります。そのため、普段から気を付けることが重要です。

書類の管理*

- 個人情報を記載した書類は分散させずに整理し、安全に保管する。(USB等の管理にも注意する。)
- パソコンの起動にはパスワードを設定し、他者に閲覧されないように保管する。
- 保存期間を過ぎた書類は、焼却、裁断等により処分する。

情報の送信

- メールの場合、個人情報をメール本文には記載せず、添付ファイルで送る。
(誤送信が無いよう、宛先は十分に確認する。)
- インターネットにつながるパソコンとそうでないパソコンを正しく認識する。

以下のような例はどれも身近な場面ですが、すべてNGです。

普段から個人情報の取り扱いには十分に注意しましょう。

- エレベーターの中などで、患者さんと他の患者さんのことについて話す。
- 仕事帰りに、喫茶店や居酒屋で同僚と患者さんのことについて話す。
- 自分の仕事内容や患者さんのことが分かるような情報を、SNSで発信する。
- 患者さんの名前等を含む仕事内容をメモした紙を、自宅に持ち帰って破棄する。
- 勤務中に私物のスマートフォンや携帯電話を操作する。

【出所】：*「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス（平成29年4月14日）」（厚生労働省）

3. 好事例インタビュー (ここからはインタビュー動画になります)

実際に働く人はどのようなことを感じているのでしょうか？

